

経営比較分析表（平成28年度決算）

山形県立総合医療センター 公立置賜総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	500床以上	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	23	対象	ド透ド未割ガ	救 臨 が 感 へ 災 地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	45,523	非該当	10:1	

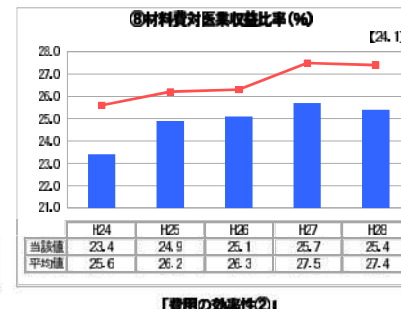
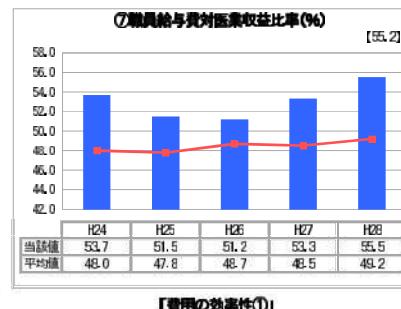
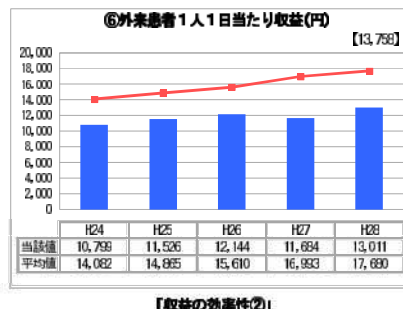
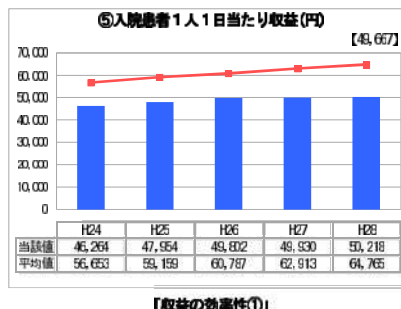
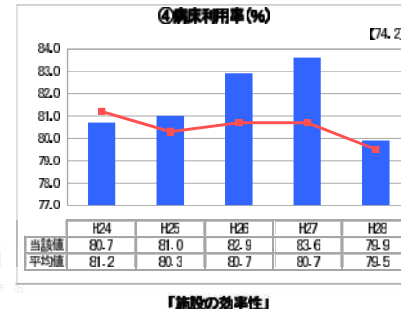
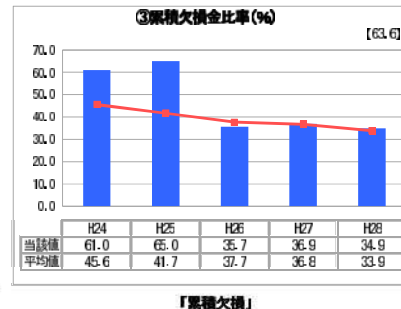
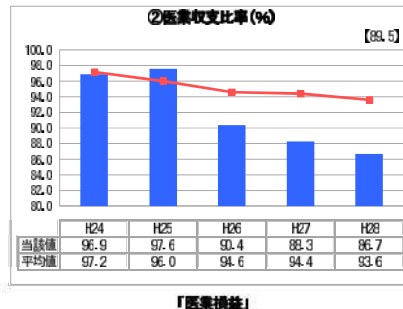
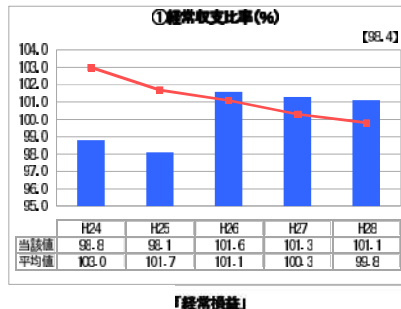
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

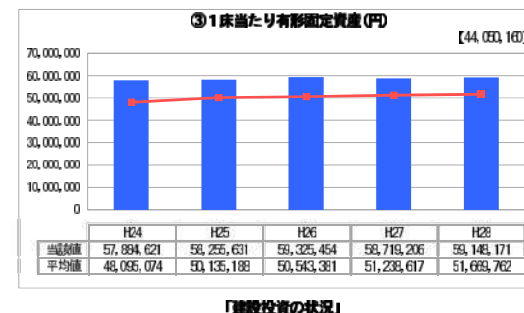
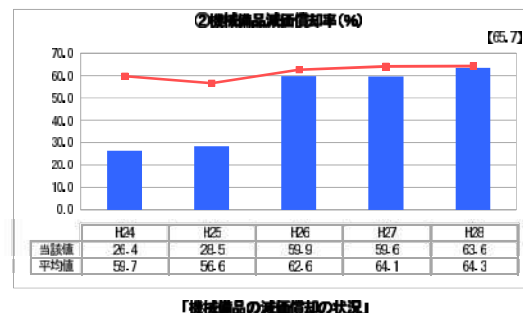
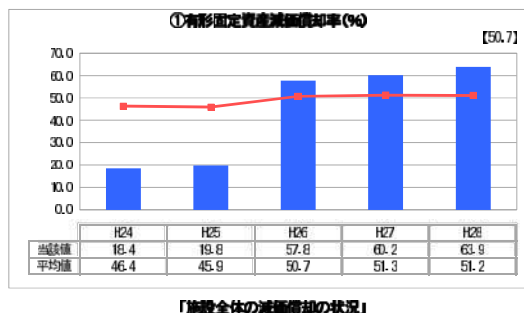
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
496	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
20	4	520
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
470	-	470

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
□ 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



Ⅰ 地域において担っている役割

公立置賜総合病院は、直轄二次保健医療圏の中核病院として高度・先進医療を提供するとともに、小児医療、周産期医療、精神医療などの専門医療を担うほか、県の臨床研修指定病院として研修医を育成する等教育病院の機能も担っている。また、併設している置賜地域唯一の救命救急センターの後方支援を行いながら、一次・二次の救急医療や災害拠点病院の役割を担っている。

Ⅱ 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

会計制度の変更があった平成26年度を境に数値は大きく変化しているが、「経常収支比率」、「累積欠損金比率」は、平均値程度で推移している。しかし、「医療収支比率」は、前年度より1.6ポイント悪化、平均値より6.9ポイント下回っており、本業である医療活動部分について更なる経営改善が必要である。

「1人1日あたり収益（入院・外来）」について、現状は、平均値にも届いていない状況であるため、新たな診療報酬加算の取得などによる収益アップに取り組む必要がある。

「職員給与費対医療収益比率」について、類似病院の職員平均年齢より1人あたり給与費を比べると大きな乖離が見られないことから、上述している医療収益を上げることができれば、平均値に近づくと思込んでいる。この点からも収益アップに取り組む必要がある。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」について、前年度より3.7ポイント増加、平均値より12.7ポイント上回っており、平均より老朽化が進んでいる。「機械器具減価償却率」については、前年度より4.0ポイント増加しているが、ほぼ平均値となっており、機械器具については更新計画をつくり、計画的に更新している結果と思われる。

有形固定資産のうち、簡単に更新することができる「建物（施設・設備）」の老朽化が進んでいると見て、今後、設備更新や大規模改修などの更新費用が増加することが見込まれることから、施設・設備の中長期改修計画を策定する必要がある。

全体総括

平成28年度決算については、「経常収支比率」が3年連続で100%を上回ることができた。しかし、本業である「医療収支比率」については、2年に1度の診療報酬改定の年度であったことや人口減少等に伴う延患者数の減少などの影響もあり、3年連続で「前年より悪化」という結果となった。

今後も延患者数の減少は進むと予想されるため、「1人1日あたり収益（入院・外来）」を上げると同時に、医療費用の削減を推進することで医療収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成28年度決算）

山形県置賜広域病院組合 公立置賜長井病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	透 訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	16,247	第2種該当	15：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

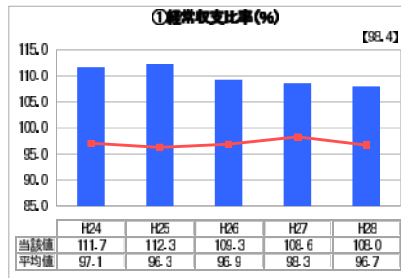
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
60	-	110
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
50	-	50

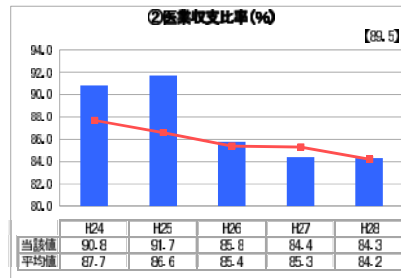
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 平成28年度全国平均

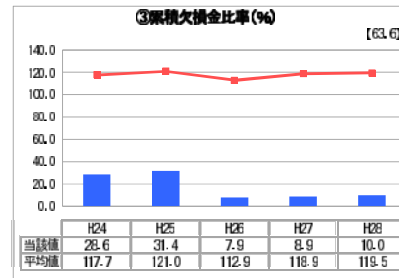
1. 経営の健全性・効率性



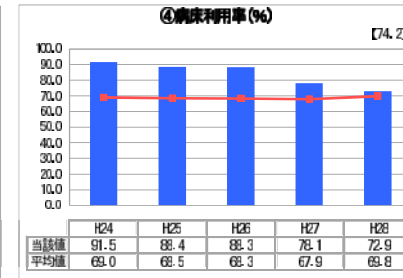
「経常損益」



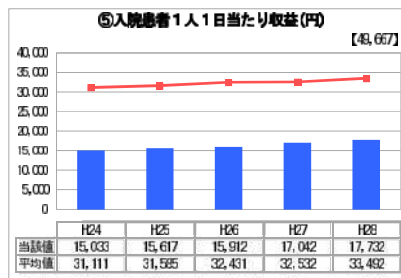
「医療損益」



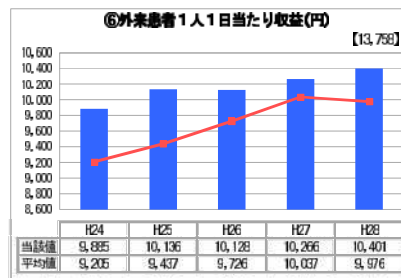
「累積欠損」



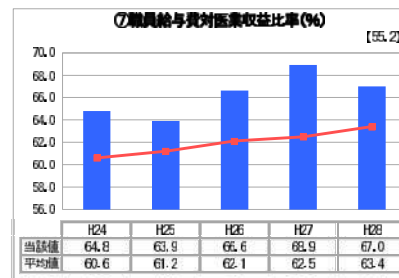
「施設の効率性」



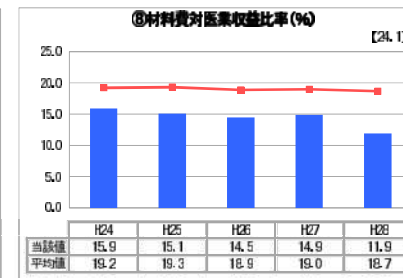
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

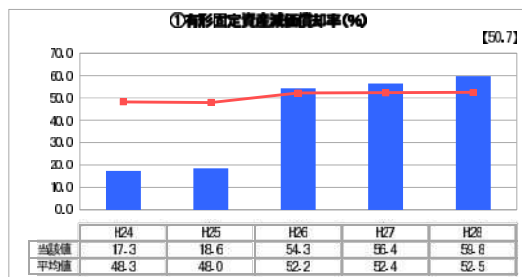


「費用の効率性①」

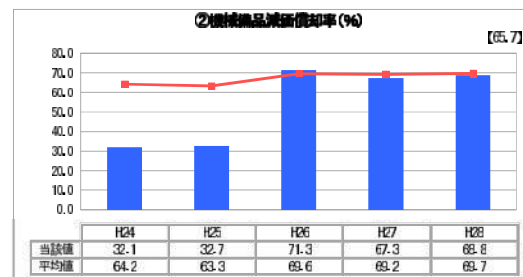


「費用の効率性②」

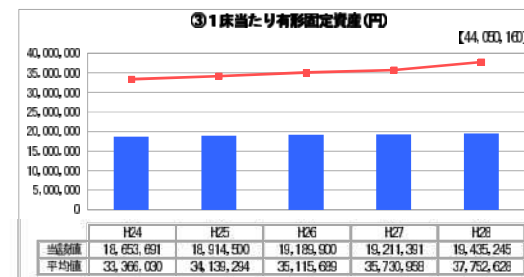
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

Ⅰ 地域において担っている役割

公立置賜長井病院は、高度・先進医療を提供する公立置賜総合病院と密接な連携や相互補完を図りながら、市町村区域を診療圏域とし、より住民に身近な医療施設として初期医療・慢性期医療の提供を行っている。

また、精神科入院施設や精神科デイケアの提供など、総合病院と連携しながら、精神医療の提供も行っている。

Ⅱ 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」は、前年度より0.6ポイント下がったが、平均値よりも11.3ポイント上回っており、引き続き100%以上を維持している。会計制度の変更で数値に変化があったが、「医療収支比率」については、平均値並みで推移し、「累積欠損金比率」については、平均値より大きく下回っている。

「1人1日あたり収益（入院）」については、平均値の半分程度に留まっており、「病床利用率」が年々減少傾向にあることを踏まえると、新たな診療報酬加算の取得など収益アップに取り組む必要がある。

「職員給与費対医療収益比率」については、平均値を上回っているが、これは医師・看護師をはじめとする医療従事者全体の平均年齢が高いことが原因であると考えられる。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」について、前年度より3.4ポイント増加、平均値よりも7.3ポイント上回っている。

「機械備品減価償却率」については、前年度より1.5ポイント増加しているが、平均値よりも0.9ポイント下回っている。

平成12年度に既存病院を再編統合し、一部事務組合を設立した際、既存財産をそのまま組合に移管しているため、築50年を超える建物があるなど保有資産の老朽化が進んでいる。

全体総括

平成28年度決算について、「経常収支比率」は、引き続き100%を上回ることができた。

一方、本業である「医療収支比率」については、人口減少に伴う延患者数の減少などの影響もあり、3年連続で「前年より悪化」という状況となった。

今後も延患者数の減少は進むと予想されるため、引き続き医療収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。

また、病院建物の耐震性不足や老朽化が著しいため、全面改築の検討を始めているが、過大な投資とならないよう、医療圏内の需要見直しに沿った適正な施設規模での整備を行っていく必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成28年度決算）

山形県道南広域病院組合 公立道南病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	透析	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	8,082	第2種該当	15：1	

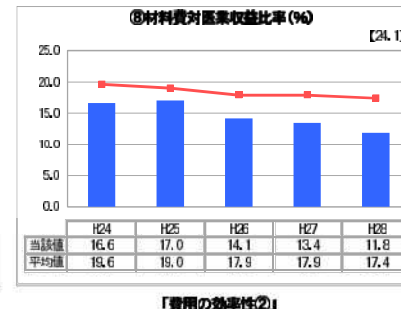
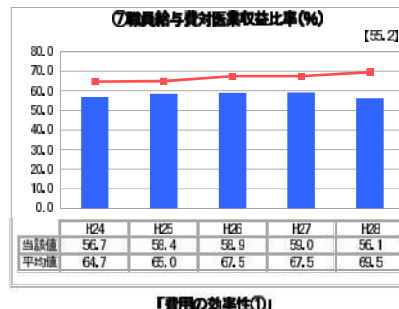
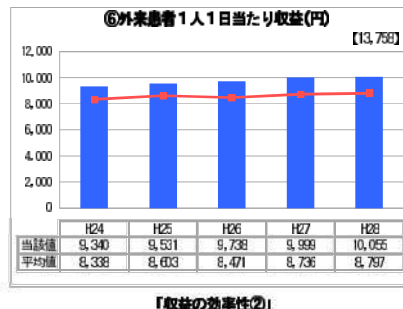
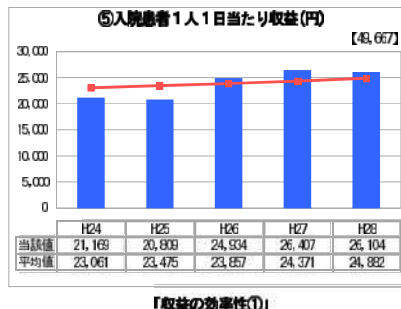
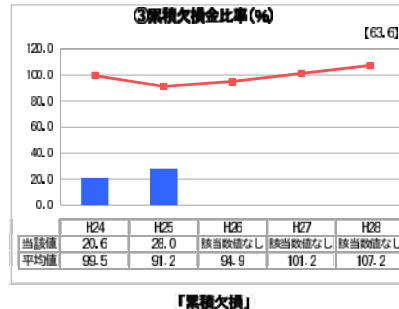
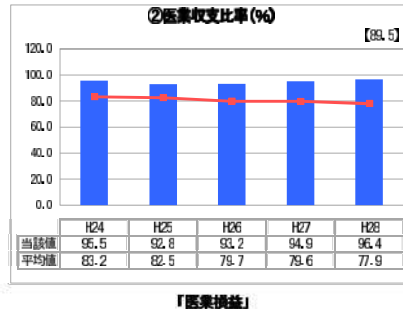
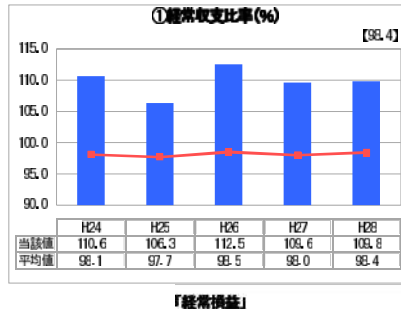
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 ヘ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

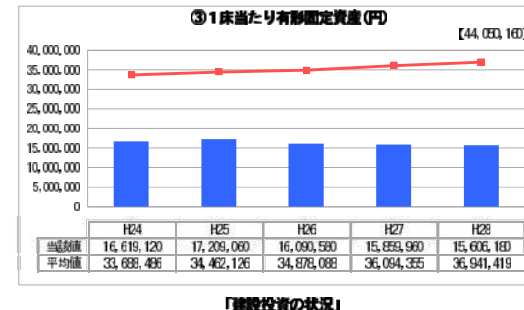
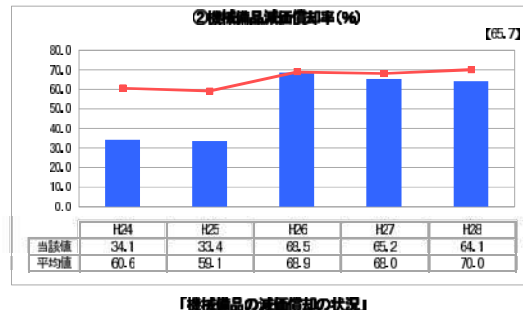
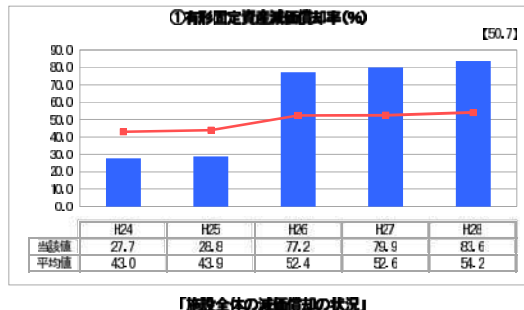
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
50	-	50

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
□ 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



Ⅰ 地域において担っている役割

公立道南病院は、高度・先進医療を提供する公立道南総合病院と密接な連携や相互補完を図りながら、市町村区域を診療圏域とし、より住民に身近な医療施設として初期医療・慢性期医療の提供を行っている。

Ⅱ 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」は、前年度より0.2ポイント上がり、平均値より11.4ポイント上回っており、引き続き100%以上を維持している。
「医療収支比率」についても、前年度より1.5ポイント上がり、平均値より上回っている状況を維持している。
「1人1日あたり収益（入院）」は、25年度までは平均値を下回っていたものの、病院における各種収益改善の取組みにより26年度からは平均値を上回っている。平均値を上回っている「1人1日あたり収益（外来）」と併せて、新たな診療報酬加算の取得など更なる収益アップに取り組んでいく。
「材料費対医療収益比率」について、現時点でも平均値を下回っているが、引き続き価格交渉等に努め、経営改善を推進していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

会計制度の変更の影響で26年度の対前年上昇幅が大きいが、「有形固定資産減価償却率」については、前年度より3.7ポイント増加、平均値よりも29.4ポイント上回っており、老朽化が進んでいる。
一方、「機械備品減価償却率」については、前年度より1.1ポイント減少、平均値よりも5.9ポイント下回っており、大規模な機器の入れ替えはできない中、定期的に機器の更新を行っていることによるものと思われる。
施設設備全体として、平成12年度に既存病院を再編統合し、一部事務組合を設立した際、既存財産をそのまま組合に移管しているため、築50年を超える建物があるなど保有資産の老朽化が進んでいる。

全体総括

平成28年度決算について、「経常収支比率」は、引き続き100%を上回ることができた。
本業である「医療収支比率」についても、人口減少に伴う延患者数の減少などの影響がある中、3年連続で「前年より改善」という状況を維持しているが、今後も延患者数の減少は進むと予想されるため、引き続き医療収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。
また、病院建物の耐震性不足や老朽化が著しいため、全面改築を計画しているが、適度な投資とならないよう、診療圏内の需要見直しに沿った適正な施設規模での整備を行っていく必要がある。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。